

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530825

研究課題名(和文) 学生の思考力とその教育実践の評価のあり方に関する実践的・総合的研究

研究課題名(英文) Study of Educational Needs and Practice of Thinking Abilities for University Students and Assessment of its Educational Effect

研究代表者

飯吉 弘子 (IIYOSHI, HIROKO)

大阪市立大学・大学教育研究センター・准教授

研究者番号：00398413

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：学生の「思考力(自分で考える力)」とその育成に焦点を当て、(A)「育成対象(思考力自体と学生の発達意識)」と(B)「育成主体(大学教員とその教育実践)」両面の文献調査・言説分析・質問紙調査の量的質的分析・ナラティブ調査・実践事例研究等の各種調査分析を通して、「大学教育が担うべき思考力育成とその教育実践と教育の評価のあり方」の総合的研究を行い、批判的に思考する「態度」育成の重要性やその教育実践事例分類、学生の発達意識や教員の意識における思考力育成の可能性や重要性の認識分析、カリキュラムと教育の評価のあり方分析等を行い、批判的に思考する能力や態度の育成のあり方の方向性と可能性を考察した。

研究成果の概要(英文)：This study focused on "thinking abilities", and is a practical and comprehensive study of the educational needs and educational practice of thinking abilities for university students. Furthermore, it assessed the educational effect of thinking abilities. The study analyzed (A) the thinking ability needs and the development consciousness of the students and (B) the recognition of importance and educational practices of thinking abilities of teachers. Both A and B were analyzed through various investigations and analyses: quantitative and qualitative analysis of questionnaires for students and teachers, narrative inquiry, case study of teaching practices, reviews of previous studies on critical thinking, and analysis of industry needs for thinking abilities. The results indicated the importance of teaching students the "attitudes" to think critically, and educating them by the various methods. In addition, our results showed the possibilities of its education.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：学生の思考力 教育実践評価 FD研究 学力論

上記の全体構想図にもあるとおり、上記は(A)【育成対象(思考力・学生)】の側面の研究であり、同～は(B)【育成主体(=教員・教育実践)】の側面に関する研究である。そして、はそれらの(C)総合分析:思考力育成の評価のあり方の研究である。

研究方法のより具体的詳細は、次項の研究成果と共に記載することとする。

4. 研究成果

先述の(A)【育成対象(思考力自体・学生)】に関する研究の【思考力自体の研究】では、まず、__-1)【育成が必要な思考力の範囲の分析】を行った。具体的には、まず、(a)多様な力を包括する「思考力」とくにCT力に関するもの中心の先行研究を踏まえて、「思考力」自体や「思考力」研究の範囲の全体像を概観した。「思考力」について、中でもCT力に関しては、多様な学問分野で研究が行われ多様な定義等がある(楠見他, 2011、鈴木他, 2006等)が、それらに共通するものとして、CT力(すなわち批判的に思考を行う力)には、方法論やスキルの他に、批判的にものごとを考える「態度や習慣」という要素も含まれ、他の思考方法やスキルをも取り込む思考態度であること、さらに大学教育においては、その態度や習慣の育成も重要となることを明らかにした。

一方で、今後の社会で求められる「思考力」の内容や大学での学習成果について考えるためのヒントとして、(b) OECD や AAC&U における「思考力」ニーズに関する考え方や、(c)最近 10 年間の産業界の要求に見られる思考力ニーズの範囲や具体的内容を明らかにした。そして、これらの(a)先行研究から見る思考力の内容や範囲と、(b)海外の各団体の考え方や、(c)産業界が求める思考力の内容や範囲の相互の関係性についての考察を深め、それらから、今後育成が重要となる思考力について考察した。その結果、OECD の能力観で重視されている「思慮深さ: 反省性(reflectivity)」という姿勢・態度や AAC&U の Value Rubric などの CT の定義などにもあるように、CT の“批判的な思考の態度・知的習慣”と重なり合う姿勢・態度が重視されていることが確認でき、産業界の要求における思考力ニーズの中でも、CT の姿勢・態度にも通ずる、思考態度、および論理的思考力、知的スキル、倫理的判断等を産業界も重視していることが明らかとなった。

加えて、以下の「学生の発達意識の分析」としても実施している一連の質問紙調査結果から、学生の発達における重要な構成要素としての思考力の可能性を明らかにした。

__-2)【思考力の評価の可能性の分析】としては、(i)思考力自体の評価可能性や、(ii)思考力自体の評価可能性の程度(=どの程度評価することが可能か)について、各種調査を実施したり先行研究成果等も検討したりしながら、総合的に考察した。

(i)としては、学生を対象とした 3 種の調査・分析を行い、「育成可能な思考力」と「思考力の評価の可能性」(=思考力をどのように取り出して描写することが可能か)について考察した。それらの調査・分析の結果は、後述の「学生の発達意識の分析」とあわせてまとめた。

(ii)としては、まず(a)思考力自体の評価の可能性の程度を考察するために、その前提となる大学生期の発達の位置づけや「大学生にとっての大学教育の意味」を、先行研究成果等も検討しながら明らかにした。そして、大学教育のありかた全体を視野に入れた以下(C)の総合的分析を行う下地として、(b)大学の教育成果としての思考力育成状況の評価(自己点検評価・第三者評価など)を中心に考察することとし、初年次教育と教養教育を中心にどのような力(思考力)の育成が行われようとしているのかという観点から、カリキュラム調査に関する分析・考察を行った。

【学生の発達意識の分析】では、主に 1・2 年次の大学生を対象とする以下(a)～(c)の一連の研究を介して、学生の思考力発達意識についての分析を行った。研究(a)では大学生の思考力の構成要素として 6 分野 21 項目をトップダウン的に選定して予備調査を行い、思考力、コミュニケーション、主体性・行動力、生涯発達・キャリアの 4 要素が相互に関連しあって学生の発達の自覚につながっている可能性を示した。研究(b)ではナラティブ調査を行い、過去全般と大学入学後とを比較すると、社会的関係の広がりやアカデミズム世界での経験にともなって学生の自覚フォーカスポイントが変化し、学生が新しい思考経験を積みながら前へと踏み出し拡散的に成長している可能性を示した。さらに、研究(c)としてナラティブワークと発達課題達成度分析を行い、「自分が大事にしていること(価値)」を自覚し語ることでできる学生が、より高い学修成果を出している可能性を示した。

(B)【育成主体(教員とその教育実践)】に関する研究の【教員の意識の研究】では、本研究の研究メンバーが所属する大学で別途実施され外部にも公開されている、大学教員の教育・FD に関する意識調査(質問紙調査)の結果データを用いて、「思考力」育成の重要性に関する大学教員の意識を分析した。

その結果、大学教員は、思考するための基本的姿勢や基礎的知識・スキルを身につけることを優先的に重視し、その上で表現力や創造的思考力、高度な知識・方法論を獲得することが重要であると考えており、難解で解が特定しにくい課題に積極的に取り組む姿勢は、育成も獲得も困難なものであり、その獲得までは期待しにくいと考えていることが示唆された。

また、__【教育実践の現状分析】では、上記で用いた調査において同時に明らかに

なっている、大学教員によって実際に実施されている「思考力」育成のための教育的工夫とその評価の現状に関する量的・質的データを用いて、思考力育成の教育や評価の実践状況等の考察を行った。多様な授業形態での多様な実践がみられ、それらを取り組み内容に応じて整理したところ 10 の取り組みに分類でき、それらがさらに、「学生の中での内発的思考」「他者との交流の中での思考」「実例や経験を通じた思考」「教育内容や工夫で引き出される思考」を学生に行わせる取り組みとして整理することができることを明らかにした。

【教育実践・FD のあり方研究】では、
- 1)【教授法開発研究】として、研究代表者・協力者が日々の教育実践の中で行った思考力育成のための教育実践の工夫を検証し、教授法や成績評価のあり方に関する実践研究・考察を進めた。具体的には、(a)研究メンバーが担当している、「批判的に思考する態度」育成のための動機づけ教育の実践とその効果についての検討および、(b)「主体的学習」や「主体的思考」に成績評価が与える影響に関する授業実践を通じた検討考察も行った。

- 2)【カリキュラム開発・FD 研究】では、上記 ~ の研究成果も踏まえながら、思考力育成に向けた効果的なカリキュラム構築のあり方や評価のあり方の可能性に関する考察、大学の教育現場におけるカリキュラム構築や FD のあり方の考察も行った。さらに、研究期間中に AAC&U の年次大会とプレミューティングシンポジウムへ参加し、- 1)と 2)両方に関わる事例の収集も行った。グローバル社会の多様な課題に挑戦するための学問分野や理系・文系・教養の等の別を超えた統合的カリキュラムのあり方について多様な議論が行われていた。

(C)【総合分析：思考力育成の評価のあり方の研究】では、以上 ~ の研究成果を踏まえて、現在の大学において求められる思考力育成のあり方の検討・考察と、思考力の育成に関する評価の可能性を学生の発達意識・教員の意識・大学教育実践現場の状況から検討し、その一定の方向性と可能性を明らかにすることについて研究メンバー各自が考察を行った。とくに日本の大学学士課程の教育現場において、「どのような思考力育成を目指し、それは、「現在の学生や教員・大学教育の現状の中で、どのような方法(カリキュラム構築・教授法・FD)を通して実践・実現が可能か」、そして、その思考力育成の成果は「どこまでどのように評価することが可能か」などについて、研究メンバーがそれぞれ、現時点で可能な限り総合的に分析・考察し、今後のあり方の方向性と可能性を提示することを試みた。

現在の大学において求められる思考力育成の方向性や、思考力の育成に関する評価の可能性を明らかにすることを目指した。とくに日本の大学学士課程の教育現場における

思考力育成教育のあり方と、実際の大学教育における実現可能などについて、教育学・教育史、教育心理学、社会心理学という異なる専門分野の 3 名が、以前にも共同で進めた先述の初年次教育やキャリアデザイン教育に関する研究成果とその視角も生かしつつ、それぞれの手法で発展的な分析・考察一定の考察の提示を試みた。

今後の展望としては、今回の研究も活かしつつ、同じメンバーを含む研究グループによって、初年次教育やキャリア教育、思考力育成教育を包括する、より大きな観点からの研究として、大学教育において育成するべき「教養」とその教育のあり方に関する、より幅広く総合的な研究を発展的に目指していきたい。

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計 13 件)

飯吉弘子「求められる思考力に関する考察 「思考力」の範囲と 21 世紀の「思考力」ニーズ」『学生の思考力とその教育実践の評価のあり方に関する実践的・総合的研究』研究成果最終報告書、-、2014 年 3 月、pp.9-27、【査読無】

渡邊席子「大学生が自覚する「思考力の発達」に関する探求的研究 質問紙調査、ナラティブ分析、および学修成果とのマッチングから見えてくる大学生の思考経験と自覚」『学生の思考力とその教育実践の評価のあり方に関する実践的・総合的研究』研究成果最終報告書、-、2014 年 3 月、pp.39-64、【査読無】

飯吉弘子「大学教員の意識と実践にみる「思考力」育成とその教授法の考察 批判的に思考する態度を引き出す教育事例を中心に」『学生の思考力とその教育実践の評価のあり方に関する実践的・総合的研究』研究成果最終報告書、-、2014 年 3 月、pp.65-78、【査読無】

西垣順子「成績評価が学習を促進する可能性 主体的学習と FD の必要性からの考察」『学生の思考力とその教育実践の評価のあり方に関する実践的・総合的研究』研究成果最終報告書、-、2014 年 3 月、pp.79-86、【査読無】

西垣順子「教養教育の到達目標に関する検討 『可逆操作の高次化における階層段階理論』による青年期の発達保障の観点から」『現代社会と大学評価』第 9 号、(印刷中)【査読有】

渡邊席子「行動を伴う思考力～問を立てて解こう～」『Un roseau 総合教育科目ガイドブック』No.14、2013 年、pp.1-3、【査読無】

飯吉弘子「戦後日本産業界の人材・教育要求変化と大学教養教育」日本労働研究機構『日本労働研究雑誌』No.629、2012 年、pp.6-18、【査読無】【依頼論文】

飯吉弘子「大阪市立大学の教育・FD に関

する教員の意識調査「予備調査」からの考察 意識調査「本調査」設計に向けた示唆」大阪市立大学『大学教育』第10巻第1号、2012年、pp.31-44、【査読有】
 飯吉弘子「教育実践を語る 自ら考えさせる教育の工夫や取組を中心に」大阪市立大学『大学教育』第9巻第2号、2012年、pp.115-116、【査読無】【依頼論文】
 西垣順子「大阪市立大学における初年次教育と総合教育科目の現状と課題」大阪市立大学『大学教育』第9巻第2号、2012年、pp.75-84、【査読無】
 飯吉弘子「FDのあり方と教育の取り組みやニーズの拾い上げについて」大阪市立大学『大学教育』第9巻第2号、2012年、pp.69-70、【査読無】
 渡邊席子「授業アンケートについて コメント」大阪市立大学『大学教育』第9巻第2号、2012年、pp.55-60、【査読無】
 飯吉弘子「戦後日本産業界の大学教育要求の検証・考察」高等教育研究会『大学創造』第25号、2010年、pp.60-73、【査読無】【依頼論文】

〔学会発表等〕(計11件)

飯吉弘子「「教養」教育への社会の要求と大学「教養」教育の変化」コンソーシアム京都 第19回FDフォーラム第3分科会「大学教育をめぐる環境変化と教養教育」発表、2014年2月23日、龍谷大学、【招待講演】
 飯吉弘子「欧米と日本の学位プログラムと学位の質保証」(招待講演)筑波大学 社会・国際学群 講演会、筑波大学、2013年3月22日、【招待講演】
 西垣順子「教養教育の到達目標に関する検討—『可逆操作の高次化における階層—段階理論』による青年期の発達保障の観点から」大学評価学会第10回全国大会第1分科会自由研究発表、龍谷大学、2013年3月9-10日
 西垣順子「成績評価と学習・学習意欲」大学コンソーシアム京都第18回FDフォーラム第1分科会話題提供、立命館大学、2013年2月24日、【招待講演】
 飯吉弘子「大阪市大の自律的日常的教育改善・FD宣言と全学&部局FD」関西地区FD連絡協議会第5回総会FD活動報告会2012、京都大学、2012年5月19日
 渡邊席子「『何を教えたか』から『何を学んだか』 『授業アンケート』から『学習成果の把握』へ」大阪市立大学第9回FD研究会話題提供、大阪市立大学、2011年11月4日
 飯吉弘子「21世紀型教養教育とカリキュラム構想・教育実践 社会を構築し生き抜ける市民・人間の育成とアウトカム向上のための教育実践評価」地域科学研究会 高等教育情報センターセミナー、明治薬科大学剛堂会館ビル、2011年10月14

日、【招待講演】
 飯吉弘子「大学のキャリア教育の可能性 - 経済界が求める人間像と大学が目指す教育」大学教育改革フォーラム in 東海 2011 パネルディスカッション「大学におけるキャリア教育の課題と可能性」発表、名古屋大学、2011年3月12日、【招待講演】
 飯吉弘子「戦後日本産業界の大学教育要求の検証・考察」高等教育研究会第93回定例研究会発表、京都私学会館、2010年6月21日、【招待講演】
 飯吉弘子「フンボルト理念の現代的解釈の可能性—ポイヤーのスカラシップ論と21世紀に求められる教養の観点から」大学教育学会第32回大会ラウンドテーブル12発表、愛媛大学、2010年6月6日
 西垣順子「大学生にとっての大学教育の意味」心理科学研究会2010年春の研究集会「全体シンポジウム：未来を創る青年とどのように関わるか」話題提供、花園会館(京都市)、2010年4月17日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
 ○出願状況(計0件)
 ○取得状況(計0件)

6. 研究組織

- (1)研究代表者
 飯吉 弘子 (HIYOSHI HIROKO)
 大阪市立大学・大学教育研究センター
 ・准教授
 研究者番号：00398413
- (2)研究分担者
 渡邊 席子 (WATANABE YORIKO)
 大阪市立大学・大学教育研究センター
 ・准教授
 研究者番号：60320579
- 西垣 順子 (NISHIGAKI JUNKO)
 大阪市立大学・大学教育研究センター
 ・准教授
 研究者番号：80345769
- (3)連携研究者
 なし